■（33）新聞記者がビデオを撮る時代に！

まさか新聞記者がビデオカメラを構える時代が来るとは思ってもいなかった。津波で役場が流され、町長も犠牲になった岩手県大槌町で、同僚は家庭用ビデオを回した。もちろんデジタルカメラの写真も撮る。メモも撮る。写真もビデオも、19日に「創刊」した電子新聞「朝日新聞デジタル」に載っている。

新聞とテレビはカメラの向きが違くと、テレビに出向した先輩記者が言っていた。新聞記者は撮影したい対象に向かってカメラを構える。テレビは真逆だという。自らの顔の方にレンズを向けて、その背後に写したい対象を置きながらレポートする。新聞記者から見れば、テレビ記者はレポートの間は取材対象から目を離すことになると思うのだが、一方で、まさに顔の見える報道というのは親しみを演出できる。ちなみに同僚が撮った映像は新聞記者的な構図で、同僚の姿は一度も登場しなかった。

教壇に立つ先生はテレビ的。黒板に要点を書いたうえで、子どもらの方に向かってから解説するからです。そんな未知の領域に新聞社も踏み入れます。何が変わるか（山）